

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2019

2 月号

表紙：光りんさん「手と手と」

- | | |
|---------------|----------------|
| 2 理事長挨拶 | 20 健康相談窓口 |
| 5 社会の声 | 22 Lovely DAYs |
| 8 特別コーナー | 22 つぶやき！ |
| 11 ささきみつおコーナー | 23 行事予定 |
| 12 育児日記 | 23 お知らせ |
| 13 塀の中のたより | |

理事長挨拶

近況報告

あちらこちらでインフルエンザが猛威を振るっておりますが、皆様は大丈夫でしょうか？

刑務所では、施設によって対応がまちまちであり、問題であると感じています。くれぐれもお体に気を付けてください。

マザーハウスでも、数名がインフルエンザにかかりました。

間もなく三歳になる長女も、インフルエンザA型にかかりました。長男や次女とは離し、私がマスクと消毒用アルコールを用意して、一緒に寝ました。まだ一人で部屋を別にするのはかわいそうで、神様に祈りながら共に休みました。

幸い、私にうつらず、完治しました。まだ赤ちゃんの次女にうつすこともなく、

無事に治すことが出来て、ほっとしています。

さて、私事ですが、今年は一月一日に休むことが出来ました。まだ疲れも溜まっている状況ですが、鍼灸を受けながら活動をしています。「これではいけない」とずっと思っているのですが、目の前で助けを求められると動かないわけにはいかないのです。

先日、DVを受けた二十歳の女性が、生後七か月の赤ちゃんを連れて相談に現れました。また、十一日の早朝には、N刑務所を卒業してきた、刑の一部執行猶予者から、「帰住地がなく、マザーハウスに行きたい」と電話がかかってきました。十八日には、S刑務所を卒業した方が来られたので対応し、ほっとしたところで、取材や裁判の情状証人、講演会、当事者ミーティング、研究会が続き、あつという間に、理事長挨拶を書く時期になりました。

キリストの愛とは

そんな中で、毎日手紙の対応もしておりますが、常識を疑うような内容の文面が多々あり、「この受刑者は自分が何処におり、何をしてそこに入ったのか、

全く理解していない」と感じる内容のものが後を絶ちません。「支援されるのが当たり前」と思っている方が多いように感じます。

これは、傲慢な人が多いと言いたいのではなく、頼み事をするにしても、支援が「前提」になっているように感じるのです。

普通、社会で人に何かを頼む時は、相手の事情を思いやります。その思いやりが欠け、当たり前のようにあれこれとお願いしてしまうのは、意識的、無意識的に関わらず、相手を御用聞きやお手伝いのための存在と認識しているからだと思います。

マザーハウスは、皆さんの御用聞きでも、お手伝いさんでもありません。受刑者の方を対象とした法人だから、受刑者にとつて少しでも不便なことは全部聞いてくれると考えているのでしょうか。マザーハウスは、自分と本気で向き合いたいと考えている方の力になりたいと考えています。

初めての手紙でいきなり、「聖書を送ってください」「お金を援助してください」と書いてきたり、当然のことのように、「こういう洋服を送ってください」「出所後そちらに行くので、住む所は〇〇か〇〇にしてください」などと平気で書いてき

たりする方がいますが、マザーハウスの趣旨を何か勘違いされているのではないのでしょうか。

文通ボランティアも含め、マザーハウスでは、物資や金銭の支援はできません。それだけの力もないです。キリストの愛と赦しに基づいて、たよりや手紙を通して、話を聴いたり、交流したり、刑務所と社会、人と人を繋ぐ活動を目指しています。キリストの愛を、甘やかす愛と誤解している方がいますが、キリストの愛は、熱く燃える、厳しい愛です。キリストは妥協することなく、私たちに愛と善と正義の実践を求めます。その厳しい追及から逃げずに、現実の自分の姿と向き合うからこそ、打ち砕かれ、自分を変えられるのです。

キリストに心を向ければ、いつでも語りかけられていることが分かります。「その要求は、正しいのか。欲望から来るものではないのか。もつと先にすべきことがあるのではないか。相手の事情を十分考えているか」と。この語りかけを無視せず、「自分は、本当はこうしたい。だけど、この語りかけを無視したら、また同じ繰り返しになる。それは嫌だから、私はこの語りかけに従う」と選択し、実行することが必要です。この選択と実践は、自分の欲や感情に反することが多い

新年賀詞



Nさん

ので、時には猛烈なストレスになると思っています。でも、それが回復には必要なのです。その痛みが必要です。日常のトラブルでも同じことが言えます。言い返したい、手を出したい、でも信仰のゆえに、そうはしない。それを続けることは、初めのうちは物凄くストレスになるし、苦しいです。でも、それがキリストの愛です。「父よ、み心ならば、この杯をわたくしから取りのけてください。しかし、わたくしの望みではなく、あなたの望みが行なわれますように」(ルカ二十二章四十二節)と祈ったキリストの愛です。自分の欲を殺し、神の御心を優先させるのです。

私も、やりたくないことがたくさんあります。でもキリストが「やりなさい」と言うから、やります。キリストの愛を実践したいからです。

ちやうど、今週のミサの福音書朗読は、ペトロが、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみよう」(ルカ五章五節)と答えた場面でした。ペトロは、先ほどまで長い間、自分たちが網を降ろしても魚が一匹も取れなかったので、降ろしても無駄だと考えましたが、「お言葉ですから」と従ったのです。自分は違うと思う、あるいは、違う行動を取りたい。でも、「お言葉ですから」と、キリストの御心に従う。これこそがキリストの愛の実践だと思います。

本気で自分を変える

何のためにマザーハウスと関わっているのか、何のために文通に参加しているのかを、しっかりと考えて頂きたいです。自分たちの欲望、希望を満たすための交流、文通ではないのです。自分を変えるためです。

私は受刑中、厳しい事を言われても、いつも感謝の思いで文通をしていました。

こんな自分と文通して下さること、時間を割いて手紙を書いて下さること、それだけで感無量でした。

何回も何回も言いますが、社会は厳しいのです。

「十五日に社会復帰してマザーハウスに行くから」と、受刑中から何度も手紙に書き、こちらの了承を得ずに勝手に荷物を送ってきた方がいましたが、結局、事務所に来ず、二日後に警察から、「無銭飲食で逮捕しましたが、そちらにどのような荷物が送られたか教えてください」と連絡が来ました。この方は一体、刑務所で何を学んだのだろうかと思います。

皆さんが刑務所で具体的にどういう生活をしているか、私には分かりませんが、「本気で変わりたい」「更生・回復したい」という方は、手紙の中に熱い思いと心の叫び、偽りのない気持ちがあり、感じ取れます。

また、本気の方は、会費もきちんと支払ってください。社会で当たり前のことを刑務所でもきちんと実践しているのです。受刑者から会費を取ることに對してクレームを言ってきた人がいますが、会費を払いたくないのなら、会員にならなければ良いのです。

会費は、マザーハウスが継続して関わるための必要なお金の分です。それ以外は、寄付を頂いたり、助成金の申請をしたりして、何とかやって来ている。マザーハウスの利益になるのではなく、回復・更生・社会復帰のための、自分のための会費なのです。

サポートは受けたが、そのためのお金は払いたくない。これは、社会では通用しません。刑務所で出来ないことが、社会に出た途端にいきなり出来るようになるでしょうか。社会では、徐々に慣れさせてくれる場所は全くと言って良いほどなく、刑務所から一歩出た途端に、社会の常識が完全に適用されるのです。皆さんはその瞬間から、社会で生きて行くのです。そのことを肝に銘じて行動して頂きたいです。

ボランティアスタッフの皆さんは、交通費さえ自己負担で、無償で働いてくださっています。隣の県から来る方もいるので、一往復の交通費だけで相当の出費になります。わざわざ出費してまで皆さんのために活動してくださっているのです。

本気で自分を変えたいのであれば、教育課に「訴訟ノート」として学習帳の許可をもらい、マザーハウスの回復プログラ

ムを何回も実践し、その答えをノートに記入して、マザーハウス支援弁護士宛に送って来てほしいです。これに対して検討した上で、「仮釈放の上申書」を作成し、刑務所長または地方更生保護委員会に提出することも可能です。

「回復プログラム」を行うと、はらわたが抉られるような思いをします。厳しいからこその奥に響き、回復するのです。マザーハウスは、そのサポートは惜しみません。

自分の現実と向き合い、苦しむ体験を通して、同じ体験を共有するマザーハウスの仲間と家族のような関係になれると思います。私は更生という言葉はあまり好きではありませんが、更生改善の道の中では、血が滲むような思いをするのです。そのことを通して被害者のことを深く考えられると思います。上っ面ではダメということですが。

また、教育課に「個人教誨」をお願いし、回復プログラムに記載してある聖書の言葉を学んでいる方もいます。その際、携行願いを出して、「回復プログラム」を持って行くそうです。諦めずに、願箋に自分の更生のために必要であることを訴えて、マザーハウスの古本募金に参加している受刑者もいます。自分で何かをする

ことが自立には必要であり、様々なことを考えて自分で願箋に要望を書き、何回も何回も、刑事視察委員会などに訴えることが、回復・更生の第一歩であると思います。お金や努力を惜しみ、受け身でいるだけでは回復は望めないと思います。

私は受刑中、これを徹底的にやりました。職員に何を言われようが関係なく、言われたら手紙にして国会議員や弁護士に訴えました。その人たちは今でも繋がっており、応援してくださっています。そして、行動をする前にいつも神様に祈りました。キリストに助けを求めました。いつでもそれを実践しました。

現在も、何かをする時には必ずキリストに祈り、助けを願い求めます。道が開くまで願い求めます。何故なら聖書に、「求めなさい。そうすれば与えられる」(マタイ七章七節)と書いてあるからです。

この「求めなさい」とは、自分のためではなく、人のために、簡単に言えば相手のために、愛のために、神様に祈り求めることであると思います。私はいつもそうしています。神様の御心ならば、どんなことも必ず実現できると確信しています。

受刑者の皆さんへ

受刑者の皆さん、刑務所側が着払いによる古本募金をさせてくれない、というお手紙を時々いただきますが、願箋を提出する際に、「被害者に対する償いの一部として、書籍を募金として寄付したいのです」と工場統括に訴えてください。マザーハウスからも、矯正局に対して、様々な方を通して申し入れと抗議をしています。

何故、古本募金をさせないのか、その答えは、自分たちの仕事を増やしたくないのだと思います。相手のことを考える、人のために何かをする、善を行う、ということとをさせない刑務所には問題があると思います。不必要となった書籍を五冊以上送れば、送料は着払いとなり、被害者・加害者への支援として寄付されるのです。それをさせない理由が不思議でなりません。

また、フランススコ事業について、皆さんによく考えて頂きたいです。この事業は、更生・回復と、学習や資格取得のために少しでもお役に立てばと思います、ボランティアスタッフが、検索や購入・発送をしています。発送料金の値上げや、矯正局のルールの中で実施していますが、

この事業を利用するにあたり、「会費を納入している方に限る」ということに納得のいかない方や、事業部のルールの改定に納得がいけない方は、利用しなければ良いと思います。善意の中で、受刑者のために仕事をしてくださっているボランティアスタッフに申し訳ない気持ちで一杯です。

敢えて言わせて頂きます。一人ひとりがこのような事業を実践してから、言うて頂きたいです。調べることは時間もかかりますし、神経も使います。少しでも安い価格で購入できるように努力をしているのです。当法人からの発送費がかかるのは仕方がないことであり、多くの受刑者が切手で代金を支払っています。購入する時は全て現金で支払っているのです。切手は現金とは交換できません。フランススコ事業を続けられ続けるほど、現金が減っていく一方です。そのような状況にも関わらず、不平、不満や常識外れの手紙を送ってくる受刑者が毎回あります。当法人は皆さんのための便利屋ではないのです。趣旨を誤解しないで頂きたいです。キリストの愛は厳しいです。甘やかす愛ではありません。厳しいことを受け入れない、自分に甘い日々の中でキリストを真に理解することは出来ないと思います。

皆さんには社会復帰後のことについて真剣に考えて頂きたいし、仲間として、家族として、再び刑務所に入ることのないよう切に願ひ、私は活動しています。

社会の皆さんへ

最後になりますが、多くの受刑者が、出所するにあたり、何も持っていない状態でマザーハウスに來ます。

皆様のご自宅などに、不必要となつてある新品の日用品、衣類、お米、インスタントラーメン等がありましたら、寄付して頂けたら幸いです。厚かましいお願いで申し訳ございませんが、どうぞよろしくお願い致します。

社会の声

講演後アンケート

★先月号の「社会の声」コーナーにて、「教誨師の働き」について（つづく）としておりましたが、「教誨師の働き」は先月号で終了です。教誨師のお仕事について質問がある方は、編集局までお知らせください。

★今月号の「社会の声」コーナーでは、昨年、国土舘大学にて、理事長が講義を担当させて頂いた時の学生さんの感想をご紹介します。今回は数が少ないので、抜粋せず全て載せています。

★担当のM先生より、「警察官志望の学生が多く、法執行側寄りの考えを持つ者が多いのですが、五十嵐さんにお話を伺つて、色々な意味で衝撃を受けたようです」とコメントを頂きました。

現代ビジネス法学科

での講義より

Iさん

五十嵐さんのお話を聞いて、私とは価値観が全然違うんだなと思いました。

法律は万能ではないけど、それを守り仕事をしなければいけない立場の人と、犯罪をしてしまうような人になつてしまふ環境にいる人との差が少しでもなくなつて、理解し合える環境になつたら社会復帰もしやすいのだろうなと思いました。

Kさん

私は将来、警察官を目指しているのですが、ただただ犯罪を犯した人を捕まえて処罰するだけで満足だと考えていました。しかし、五十嵐さんの話を聞いて、犯罪を犯してしまったことを自覚して社会に復帰しようとしても、刑務所にいたというだけで復帰が出来ない人が多くいるんだと思いました。

警察官になつたら、犯罪者に寄り添える人になりたいと思います。

Tさん

加害者側目線から考えるのは初めてでした。

普段は被害者側から考えることが多いので、あまりない体験ができたと思います。

Sさん

確かに犯罪を犯した加害者が一番悪いですが、その動機には、今の社会の影響や周囲の環境が無関係というわけではなく、色々な面で影響を与えてしまつていのではないかと思いました。

このような負の連鎖を断ち切るためにも、しっかりと再犯防止のために人を生かす働きを増やすべきだと思います。

Sさん

講義を聞く事前に、犯罪者処遇法の講義にて、加害者の社会復帰や加害者家族の社会的立場に関する問題について取り扱っていたので、五十嵐さんのお話に理解はできましたが、自分としては共感することはできないと感じました。



河童さん

Mさん

綺麗事だけの人間にはなりたくないな
と思いました。

Sさん

五十嵐さんの講演に出席し、お話を聞き、自分はとても恵まれた環境で生きているんだと感じました。これからは、小さなことに對しても、親や、周りの人々に感謝して生きていこうと思いました。

Fさん

五十嵐さんのお話を聞く前は、正直、僕は出所者が社会からどんな扱いをされようと、自分から犯罪を犯し、他人に迷惑をかけたのだから当然の扱いで、自業自得だと思っていました。

でも、話を聞いて、犯罪を犯した人たちは自分なりに反省して変わろうとしていることが分かりました。

僕は、五十嵐さん以外の受刑者が何を思っただろうとしたのか、今後償うためにどんなことをして社会に貢献しようとしているのかは知りませんが、「変わり

たい」と思っている出所者に対して、少し味方になってあげたいと思いました。

しかし、犯罪行為を受けた人たち、また、その親族は赦せなくて当然だと思うので、社会から今のようない扱いを受けてもしょうがないのかなと思いました。

Aさん

僕にとつては、とても貴重な時間を過ごすことができました。普通ならばなかなか叶うことのない、受刑者（加害者）の方のお話はとても有意義な時間でした。

たしかに、この世の中、日本に限らず、全世界で犯罪者に対する目や態度がキツイというのは事実だと思います。それに対する五十嵐さんの考え方、行動は非常に革命的であると言え、また勇気のあるものだと思います。

ただ、僕のようなものが意見をすることは大変失礼なことだと承知の上ですが、言わせて頂きたいことがあります。それは、最終的に五十嵐さんの考えの行き着いた先の、「人は愛し、愛される、また、必要とされるもの」という考えが、神や宗教の考え方に沿ったものになったことが、言い方は悪いですが残念でなりません。

これは決して宗教や神を信じるのが悪いということではないです。しかし、あ

のような立派な活動をしている中の理念がそれに沿ったものになると、マザーハウスを頼りに来る者にとつては都合のいい理念になると思いますが、僕からしたら、それを理念にしてしまったら、「結局行き着く先は、助けや赦しを、神やキリストを理由にしているだけ。そしてそれをまた理由に、僕らにも赦す意志や、助ける意志を持つてほしいと言っているに過ぎない」と、正直思ってしまった。

失礼なことを言っているのは承知ですが、しかしこれが、講演が終わってじっくり考えた結果です。ただの一人の一般人の考えに過ぎません。

もちろんこれからも五十嵐さんの活動は応援させていただきたいと思っています。長文にわたり書かせていただきました。またこのような貴重な時間を作っていただけだと思います。

普段は聞けない話を聞けてとても勉強になりました。普段はどうしても被害者の視点で見えてしましますが、受刑者の方の視点でも物事を見られるようにしたいです。また、五十嵐さんが言っていた、「見ないふりを罪としたら、沢山の日本人が捕まってしまう」という言葉にはとても感銘を受けました。

法律学科での講義より**Nさん**

講義を聞いて私が感じた事は、犯罪者の処遇についてです。

一度犯罪を犯した人、あるいは、冤罪で罪を着せられそうになった人に送られる数多の罵詈雑言ですが、これは今の日本、あるいは世界に、完全に防ぎ切る方法はないと私は考えました。その理由は、このストレス社会の中、少しでも悪い人間と認識されてしまった者に対して、様々な憎悪という名の石を投げつける事は、インターネットによってとても簡単になつてしまったからです。

たとえ数人の善人と呼べる人たちが、罪を償っている人、及び、冤罪を着せられそうになった人の良いところを知ついても、それを遥かに上回る、何も知らない人たちによって、本人達の知らないところで都合の良い玩具にされてしまうのが現状です。

無論、私としては、この現状に納得などしておらず、むしろ何かできないかと考えております。

しかし、今私が考えられる最適解は、時間の経過しかないのではと考えてしまっています。

私の将来の夢として警察官になることがありますが、最終的には、上記で述べた弱い立場の人々を救える存在になることも目指しています。この夢がいつ実現できるか、そもそも可能なかは不明瞭ですが、こうした弱い立場の人々の苦痛を決して忘れないようにはします。

この度は大変貴重なお話を聞かせて下さり誠に感謝します。またいつかお話しできることを心よりお待ちしております。



河童さん

Oさん

普段、私達には見えない部分の話を聞けて、改めて社会や犯罪や権力などに対して考えることができました。

私は警察官を目指しています。私が思う警察官とは、困っている人を助け、誤った事をしてしまった人を導く存在であると思っています。

講義を聞いていて、導く人である警察官が、罪を犯した人に対して、その人の道を閉ざすような事をしている、という事実を知って、残念な気持ちを抱きました。私はそういった、間違った権力の使い方をするような警察官にはなりたくないと思いました。

犯罪を犯してしまった人は確かに悪いです。しかし、罪を償い、新たに社会に出ようとする人に対して、レッテルを貼り、その人の事を知ろうともしない人の方が、私は悪いと思います。素晴らしい才能を持っているかもしれないし、可能性を潰すようなことはあてはいけないと思います。

色々考えることのできる講義になりました。ありがとうございました。

Iさん

今日、五十嵐さんに会った時、失礼な言い方ですが、意外と普通の人なんだなと思っていました。服役した人って勝手に人相が悪いイメージを持っていました。

話の中でもあったように、自分たちがこういう偏見を持つことで、より社会復帰が難しくなると感じました。罪を犯した点ではもちろん罰せられるべき人物ではありますが、服役して人間として心が変われば、その人たちが自分たちは受け入れていかないとけないかなと思いました。

警察官という職業を目指す以上、犯罪者とは隣り合わせの世界なわけで、確かに悪人ではあるけど、バックグラウンドや過去を考慮して接することも大切なのかなと思いました。とても刺激的な話が聞けて、人間として成長できたのかなと思います。

Oさん

今までは、被害者の立場でしか物事を考えられなかったが、今回の五十嵐さんの話を聞いて、加害者の立場にも立つて考えることが大切だと思った。

Wさん

なかなか聞けない話が聞けて貴重な体験ができました。犯罪歴がある人に話を聞くことは、周りにそういう人がいても聞きづらいことなので、すぐくためになりました。

Mさん

誰でも、犯罪を犯すことは悪いことだと思います。だけど、五十嵐さんが自分のやってしまった事を反省して、次にどう生きればいいのかという信念を持って前に進み続けているのを見て、すごいなと思いました。仮に、自分が罪を犯したとして、その体談話を他の人に話すことは出来るだろうかと考えてしまいます。それが出来る五十嵐さんは本当にすごいなと思いました。

それに加えて、すごく説得力のある話を聞いて、考えさせられた部分もありました。

本当は少し言いたくない事もあったと思いますが、今回の五十嵐の貴重な話を聞けて本当に良かったです。そして、自分をもう一度見つめ直す機会を与えてくれた五十嵐さんには感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

Hさん

講義を聞いて、愛とは何かを理解させられました。自分も、平等に接していると思いました。

Tさん

五十嵐さんの話を聞いて、加害者に対しての更生の考え方が変わりました。

これからは、自分たちに出来ることがあれば、救いの手を差し伸べて、より良い社会を作っていければいいと思いました。

Wさん

感想としては、出所後の生活の大変さを感じる事が出来ました。

実際に刑務所の生活を体験した五十嵐さんの考えや、一度捕まった人に対する社会の厳しさが詰まっていたと思います。

自分は将来、警察官になろうと考えているので、今回のお話を参考に、更生を促せるような警察官になろうと思います。

Tさん

お越しいただきありがとうございます！

あまり経験できないようなことをお話しいただき、自分自身の中でも楽しめた時間だったと思います。また機会があればお話を聞かせてください！

(おわり)

特別コーナー

犯罪社会学会レポート

☆昨年の十月に行われた犯罪社会学会でのシンポジウム(テーマセッションC「回復の道への対立から対話へ」)に、マザーハウスが参加させて頂きましたので、その報告書から抜粋して内容をご紹介します(一部編集しております)。

(つづき…)

☆

質疑応答

※インシヤル表記の方は当事者です。

質問

・日本では、罪を悔い改めるということが仮釈放の条件になっており、被害者の視点も取り入れた教育を刑務所でやっているが、刑務所の教育についてはどう思うか。

↓回答

・「被害者感情教育を受けたい」と刑務所で手を上げたが、「それは刑務所側が選ぶのだ」と言われて受けられなかった。そこで、自分の知り合いを通して、犯罪被害者のお母さんと手紙でやり取りをした。(理事長)

・私がいた刑務所では、被害者の家族の会の方が来られて、全員でその人の話を聞くということがあった。

T刑では、被害者感情教育はあったが、形だけのもので、仕方なしに参加し

ている感じだった。教育を押し付けていて、本人の自主性を大事にするものではなかった(Nさん)。

質問

・元受刑者の就労について、今はだいぶ状況が変わっているのではないか。

↓回答

・「保護カード」(※出所一ヶ月前の満期調べの時に、刑務所の分類課に言うともらえる)というものがあり、ハローワークでは、この保護カードを見せるだけで良くて、刑務所経験者ということを説明する必要がない。また、その時の紹介先は協力企業主に限られる(参加者)。

・元受刑者がハローワークで紹介される先は、ほぼブラックな企業だ。保護カードがあっても、企業面接では「空白期間は何をされてましたか」と、必ず聞かれる(Nさん)。

質問

・刑務所の教育は改善されてきているか。

↓回答

・特別改善指導（薬物依存等、各々の事情に則して行われる指導）には、R1からR6の各段階がある。

R1は薬物依存改善指導、R2は暴力団離脱指導、R3は性犯罪再犯防止指導、R4は被害者の感情を取り入れた教育、R5は交通安全指導、R6は就労支援指導。

「この二〜三年、法務省の考えがかなり変わってきて、就労や教育プログラムはずいぶん改善されている（参加者）。

・教育が変わったかどうかは分からないが、自分で向き合ったからこれだけ変わった、というのはある。教育を受けたから変わった、ということはない（Kさん）。

・R3に関して言うと、受けると「あいつは性犯だ」とばれる。そうすると、いじめられる。だから、それを受けたくないという人間もいる。

本人の「学びたい」という気持ちを大事にして指導するなら、教育も効果はあると思う。

マザーハウスのメンバーが刑務所で受刑者と対話できるように教育プログラムを作って欲しい（理事長）。

質問

・本日は色々な立場の人が参加しており、それぞれの現場で大きな変化がある。しかし、それがマッチングしているかどうか問題だ。

専門家も努力しているし、矯正・更生保護の制度もずいぶん改善された。しかし、受刑経験者は、地域生活者だ。それぞれの市町村でも再犯防止推進計画を立てる時に、元受刑者から地域生活の実態を聴いたり、刑務所の処遇について元受刑者の声を聴いたりする必要があるのであるのか。



河童さん

↓回答

・今、社会福祉士が、必ず刑務所に配置されている。この人たちは最初任期付きであったが、今は定年制に切り替わっている（参加者）。

・地域社会において、一生懸命動いているのは保護観察官や保護司だけだ。行政も巻き込んで話をしようとしても、検察庁は、音頭は取るが全く動かない（参加者）。

・保護観察所と当事者のグループが協力することが大事だと思う（理事長）。

質問

・再犯防止は今、どのような状況か。

↓回答

・再犯防止推進法が作られたのは良いが、その目的は、刑務所にいる人が再び犯罪しないようにすることはずだ。それなのに、回復に向かう当事者たちの声を聴かないで、誰を回復させたいのか。本当に回復させたいのなら、その当事者の声を聴くべきだ（理事長）。

・一県の再犯防止推進会議の会長をやっているが、刑務所でどれくらいの方が受刑しているのか、対象者を調べようと、この間、調査票を作った（参加者）。

・再犯防止推進計画でも当事者の声が見えてこない。地域住民や被害者、元受刑者の人たちを委員に入れなければ、いくら役所が号令をかけても、前には進まないと思う。

専門家の先生の発言は勉強にはなったが、当事者の声を聞きたい（参加者）。

・四十年、民間企業で働き、今は大学院に通っている。

「社会の常識は刑務所の非常識、刑務所の常識は社会の非常識」と言われたが、私の会社でも、「会社の常識は社会の非常識」だった。

日本的な組織ルールというか、刑務所も民間会社も、独特の倫理感がある（参加者）。

質問

・法務省も、自治体も、再犯防止に本気で取り組んでいるのか。当事者の声を聞くようにしているのか。

↓回答

・マザーハウスでは様々な支援活動をやっているが、国も地方自治体も「再犯防止計画には資金援助する」という姿勢を打ち出しているのに、実際は何もしてくれない。当事者の叫び声を、都道府県、市区町村や法務省が聞くべきだ。

また、受刑者の回復支援のため、各地の刑務所に行くが、自分に前科があるから受刑者と面会をさせてくれない。裁判の情状証人になったとき、法務省（検察官）は、「お前は犯罪をやった人間だから」として、過去の罪状を法廷で暴露し、証言もさせず、文通もさせてくれなかった。それに抗議して千葉地裁に訴え、勝訴判決を獲得した。その結果、初めて刑務所の中にいる人に手紙が出せるようになり、面会できるようになった。法務省は「受刑者の人権」などと言うが、本当に実践しているのか疑問である（理事長）。

・更生緊急保護（※刑務所から釈放された人や、保護観察無しの執行猶予付き判決を受けた人などに対して、国、国の委託を受けた更生保護施設が、当面の宿泊所の提供や、食事・衣類などの給与、就業の援助、社会生活の訓練といった、必要な保護を行うこと）も、

結局は本人の申し出に基づいて保護するわけで、それ以上の関わりはできない（参加者）。

・再犯防止推進計画の委員会に入っているが、状況を知らない人（委員）の前で話すのは大変なこと。全く状況を知らない人が委員になっている（参加者）。

・（状況を知らない委員の前で話すには、まず、）再犯率の説明もしなければならぬし。

とどのつまり、国民がいかに理解するかだ。更生保護施設を出た時に、国家がどうするかは、国民の理解がどれだけあるか、ということにかかっている（参加者）。

・日本の常識では、受刑者は怖い人で、将来また罪を犯す、予備的な犯罪者というイメージがある。偶然、その人が刑務所帰りと分かると、その噂が広がって、途端に職場に行けなくなる。そういう現象は日本で今、すごく起きている。

だから、マザーハウスの皆さんが、受刑者が色々悩んでいることや、地域社会で暮らすには何が必要かということを話したり、知らせたりすることはとても大切だと思う（参加者）。

・マザーハウスは、まず姿で見せようと考えている。マリア・カフェを作ったのも、顔と顔を向き合って話せば、同じ人間だなと分かるから、地域交流のため

の場所として作った。僕にも子どもがいて、一人の父親であり、地域の生活者だ。その姿を社会に見せ、社会で生活しながら訴えていくことによって、「こうやって頑張っている人もいるんだ」と知ってもらいたい。それが一人ひとりの認識を変えていくことに繋がると思う。マザーハウスのメンバーを連れて大学で話したり、学生たちと少しずつ触れ合ったりすることで、偏見がなくなり、変わっていくと思う。

社会の方をお願いしたいのは、僕たちで出来ることは一生懸命やるが、とにかく社会の壁が高い。この壁を越えていくには、社会に応援団がいないと難しい。皆さん一人ひとりに応援団になって頂ければ有難い（理事長）。

質問

・出所後のマザーハウスでの訓練とは。

↓回答

・以前、便利屋業の現場で大失敗したことがあった。壁の養生をしないで物を

運んだので、壁を傷つけてしまい、大損害を出した。「このぐらい出来るだろう」と思いこんで、事前に何も注意しないでやってしまった。メンバーの一人は、「こんな荷物を持ったことがない」とお客さんに言ったらしい。挙句の果てに、お客さんに「駐車場に置いた車を見ておいてくれ」とまで言った。

このような、「これは意識を変えていかなければいけない」と思うことが続いたため、お客さんのところではちゃんと挨拶するように、事務所に来たら毎日掃除をやるように、など、そういう当たり前のことを全て含めて注意し、実行するようにした。

仕事の段取りを自分で考えること、現場の作業では常に声を掛け合うことなど、基本的な部分を口うるさく言って、意識を変えていくということを今やっている（Nさん）。

・各刑務所に、マザーハウスが作った回復プログラムを送った。その中に、金銭管理、行動計画が入っている。

また、出所してきたら聖書の講座に連れて行って、色々な話を聴いたり、そこにいる人たちと触れ合ったりする機会を作るようにしている。他には、教会でコーヒーを販売させてもらったり、大学でお話をさせてもらったりという体験を通じて

て、コミュニケーションの訓練をする。マインドフルネス瞑想の体験で、怒りをどう処理するか、その気づきをもったりする体験も設けている。

生活の具体的な部分は、事業部のスタッフが責任をもって教育している。色んな失敗があつて、「これをやってはいけない」ということが分かってくると思う（理事長）。

質問

・マザーハウスが社会的に注目されるにつれ、様々な反発が出てくるのではないか。

↓回答

・SNSには個人情報情報を安易に載せないように注意すべきだ（参加者）。

・実際、「貧困ビジネスだからやめる」と検察庁に訴えた人もいる（理事長）。

・「これをやれ、あれをやれ」と言ってくる人がいて、「それはダメ」と断ると、「貧困ビジネスだ」と言ってくる（Nさん）。

（おわり）

ささきみつお コーナー

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

心に太陽を持つ

以下の詩は、《セザール・フライミッシュン作 山本有三（訳）新潮文庫》より抜粋したものである。

☆

心に太陽を持て。
あらしが ふこうと、
ふぶきが こようと、
いつも、心に太陽を持て。

くちびるに歌を持て、
自分のくらしに、
苦勞が絶えなかつと、
いつも、くちびるに歌を持て。

苦しんでいる人、
なやんでいる人には、
こう、はげましてやろう。

「勇気を失つな。
くちびるに歌を持て。
心に太陽を持て。」

☆



光りんさん

「ネコだつて、ティータイムを楽しむことも、あるんだよ。アチチーネコ舌だけ」

「君、なんでそんなに明るく楽しそうなんだ？」

学生の頃、バイト先の同僚で、いつも歌をうたいながら仕事をしている男がいた。私はその頃、すべてが思い通りに行かず、将来に失望して落ち込んでいた。

「だつて、この職場の機械の音がうるさいし、とても蒸し暑くて、歌でもうたわなければ気が滅入ってしまうからさ」。

そう言つて彼は、ドイツ語でベートーヴェンの交響曲第九番の「歓喜の歌」を繰り返してうたっていた。それを聞きながら、私も気持ちよく仕事ができる。

その後も落ち込んだ時は彼を思い出して、「歓喜の歌」を口ずさんで自分を励ました。

数年後のある日曜の朝、渋谷の街角でばったり彼と出会つた。

「なつかしいねえ。今どうしてるの?」
と聞くと、「いやあ、彼女には振られるし、会社は首になるし、ろくなことないよ。俺、もうだめだよ」と、かなりしょげていた。

「だつて、あの頃はバイト先で歌をうたつて、とても元気だつたじゃないか。もうあの歌はうたわなの?」。

「今、俺の心は真つ暗だ。とても歌なんか、うたう気になれないよ。」

「そうか、これから行くところがあるんだけど、用事が済んだら一緒に昼飯でもしないか?。」

彼は素直についてきた。行つた先は私の教会だった。

「なんだ、キリストの教会じゃないか、俺にはちよつと場違いだから帰るよ」としり込みしている彼を、「まあ、いいじゃないか」と半ば強引に連れ込んだ。

そこは、大勢の外国人が礼拝している教会だった。私はクワイア（聖歌隊）のメンバーだったので、彼にガウンを着せて、講壇上のクワイアの私の隣に座らせた。

生まれて初めて教会の門をくぐり、英語の讃美歌を持たされた彼は、大勢の外人教会員と向き合つて目を白黒させていた。

礼拝が始まり、クワイアが立ち上がった、その日の讃美歌を歌い始めた。なんと、それはベートーヴェンの「歓喜の歌」であった。彼は思わず声を張り上げてうたっていた。

礼拝が終わると、クワイアの全員が彼に握手を求めてきた。

「いやあ、あの時は講壇の上で一体どうなることかと、緊張のあまり冷や汗が出たよ。でも、勇気を出して、久しぶりに大声でうたったら、心の中のものもやが吹っ飛んでしまった。何か、明るい希望が出てきたよ。」

一緒に昼食をした後、彼は私に感謝して帰つていった。

セザール・フライミシュレンは、ドイツの詩人である。第二次世界大戦に向かいつつあつた暗い時代に、彼の作つたこの詩は、ドイツの多くの家庭の壁に、聖書の句などと一緒に掛けられていた。

同じ時期に、日本の青少年のために山本有三が編集した「日本少国民文庫」の第十二巻にこの詩の訳が掲載され、大ヒットした。

私は、暗い気分に落ち込んだ時は、街を歩きながら口笛で賛美することになっている。そうすると心が明るくなってくる。今の時代でも、一番必要なのは、「心に太陽を持つ」ことではないだろうか。

「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」（ヨハネ八章十二節）。

理事長の奥さんによる

育児日記

以前は、「おおきくなったら、でんしゃになりたい、かめんらいだーになりたい」と言っていたー君が、最近は「ババみたいになりたい!」と言っていたのが、成長を感じました。また、「ママ、ごはんつくってくれてありがとう」など、突然お礼を言ってくれます。

お風呂に入っている時に、「ー君はマリアカフェに行くのが大好きなのに、最近行かないね?」と聞くと、「だってKちゃんがかぜをひいているから、みんなにうつしちゃうじゃん」と言つたので、「小さいのにそんなこと考えてるんだね!」と感心していたら、その後、湯船に入ったー君が、「あのねママ、ーくんね、おゆのなかでおしっこしているんだよ」、「えええ?」、「だって、おゆのなかかたないつていつていたから、おしっこしてもいいのかなとおもつて!」と笑顔で話していました。

Kちゃんは、次女のRちゃんが泣いていた時、アンパンマンのおも

ちやを持つて来てあやし、泣き止まないと、「やなんかーい」と言つて、次はハンバーガーのおもちやを持つてきてあやし、それでも泣き止まないと、「だめなんかーい」と言っていました。

また、自分のことを何故か「ぽつ」と呼んでいます。Rちゃんと一緒にリュックを背負つて、「ぽつ、ようちえんいってくるー!」と言つて遊んでいます。

Rちゃんは、ミークャットみたいに立ちあがり、一步、二歩、三歩で尻もちをついています。



きついよパパ

塀の中のたより

—受刑者からのお手紙—

「それでも」愛を実践する！

Ｔさん

「心から喜んでアガベの愛を実践する」
（Ｏ・Ｍさん）（たより二〇一八年九月
号の十七ページ）を読んで感じたことが
あります。

「邪心が出て上手くいかない」と言わ
れますが、「愛を実践したい！」と思う
のと同じように、「くそーこのヤロウー」
と思い感じてしまうのは、当たり前のこと
であり、その上で、「それでも私は、
愛を実践したい！」と思えて行動するこ
とが大切だと思うのです。邪心から目を
背けないで、ちゃんと向き合い、素直に、

「あ、オレ、今怒ってるな」と自覚した
上で、「それでもオレは愛を実践するん
だ！」と自分に言い聞かせて行動してい
くことで、見えてくるものがあります。

そして、「人間って完璧じゃない。完璧
じゃないから成長する喜び、感動があり、
味わい深い人生を送ることができる。生
きていて良かった」と感じながら、力強
く希望を持って生きていけると思います。
また、「オレって愛する心もあるけど、
憎しみや怒りを抱く破壊的な心もある、
不完全な存在だ。でもそれが、人間だ
よな」と認められることで、他人の失敗
も受け入れられて、素直にありのままに
さらけ出し、触れ合えると思います。

これでは人間として

生きている価値がない

Ｎさん

私の出所も残り半年ほどとなりまし
た。

恥ずかしながら、私は今回の服役を含
めて十回以上の入所、出所を繰り返して
参りました。何度も何度も同じ過ち
を犯しながら、今まで何一つ反省せず
に好き勝手に今日まで生きて参りました。

その結果、全てを失い、出所を半年後
に控えて、初めてあれこれと考える昨今
です。

これまで、刑務所を出たり入ったりの
懲りない人生でした。逮捕される度に、
「また刑務所へ入れればいいやあ〜」とい
う、極楽とんぼ（※のんきに暮らす者を
からかつて言う言葉）のような気持ちと
なり、「どうせ俺なんかが刑務所に入っ
ても、誰も心配をする者もないし、この
まま塀の中で獄死してもいい」とさえ思っ
ていました。

今まで何もなさずに、ただ漠然とした
気持ちで人生を送って参りました。過去
には、暴力団組織にも加入し、組長と
呼ばれる地位まで務めました。今は何
一つ残っていません。

マザーハウスの活動を知り、朝晩とお
祈りをするようになったこの頃は、さす
がに、残り少ない自分の人生、身の振り
方を考えるようになった次第です。今ま
で何度も刑務所に入って過こして参りま
したが、このような気持ちになったのは
初めてのことです。なぜ、このような心
境になったのか、自分でも不思議なぐら
いに、残りの人生を真剣に考えるよう
になりました。

このまま今までのような安易な考えで
出所をすれば、また必ず刑務所に逆戻
りをすると思っています。「これでは、人
間として何も生きている価値がない」と
思うようになったのです。

私は、六十を超えた年齢ですが、もう
一度、人として人生をやり直せたらと
思っているところです。



光りんさん
「ホッホ、シルエットだけなら、
ボク達、区別がつかないね！それ
にしても、キミ、ハデだニャー！」

探し求める心

Yさん

今年もまた長い冬がやってきます。この高い塀を見上げるだけでも息苦しさを感ずるのに、真つ白い雪に覆われると、二重の意味で冬の中に閉じ込められるようで、気が滅入ります（苦笑）。

私は人生の多くを、この冬の場所で過ごしてきましたが、今は主にあつて喜びと心の平安を噛みしめながら生活させて頂いています。

一方で、二〇一八年は台風や地震による自然災害で多くの命が失われ、昨日までそこにあつた日常が奪われました。そして、今も避難所生活を強いられている人がいます。

私は、何故このような苦しみが起きるのかよりも、神様はこの事態をいかに用いられるのかを考えます。

ローマ人への手紙第八章は、苦難についての大変重要な箇所です。私はここを次のように理解しています。「あなたに起きる何事も、神様が用いられないことは無い」と。

人生の大半を獄に繋がれ、闇の底で絶望を味わった私のような罪深い者にさえ、光を当て希望を与えてくれた偉大な方です。

神様に会えることは大きな恵みですが、自分の力だけでは出来ません。しかし、人生に神様が何を語りかけておられるかを自分で考察しようと思わないことには、永遠に神様の声に接することは出来ません。

聖書の中で、神様は、その人その人のメンタリテイや、体験によって、ある人を岩と呼び、ある人を牧者と呼んでいきます。

また、人によって神様との出会い方も違います。罪人である私は、その罪のお陰で神様を感じることが出来たと思います。

夏目漱石の小説『門』は、出会おうとしない人間を見事に描いています。

主人公は、神様を求めて数日間座り続けます。表の門は閉まっており、彼が、門が開くのを待っていると、中から、「それは他人に開いてもらうものではない」という声が聞こえてきます。しかし、彼には開く勇気がなく、中座して帰ってしまうのです。

ここで生活するほとんどの受刑者は、正しく生きたい、やり直したい、という思いを多かれ少なかれ、持っていると思います。悩んで、苦しんで神様を求めているのに、肉の欲に流されて、本当にやりたいことが出来ずにいるのです。

神様に会えるには、神様を探し求める心が必要です。それには、考えるよりも、まず素直になつて跪くことが一番の近道ではないかと思えます。

もし私たちが神様に会えば、その瞬間から、それまでの生活は一変し、未来は無限の希望で膨らみます。

自分の中には、まだ過去の悪い習慣や汚れた部分があり、無意識のうちにそれらが頭をもたげることがあります。自分では変わったつもりであり、事実、変わったとも思うのですが、肉の自分に支配されていると感じることもしばしばで、多くの気付きがあるのに行動が伴わないのです。

妥協してしまう自分、流されてしまう自分、本当にやりたい事が出来ず、やりたくない事をやってしまう自分に失望し、自己嫌悪に陥るのです。

現在の自分に満足しない求道心こそ、回心の印であり、原動力でもあります。

何も求めないこと、特に神様を求めないことこそ、罪であると思うのです。

私たち罪人にとって、「回心すれば新しく出発できる」ということは信じ難いことですが、キリスト教が回心は可能だと主張するのは、「人間は神様から離れることが出来るが、神様は人間を見捨てることはなさらない」という信仰にあるのです。

「私が来たのは、義人を招く為ではなく、罪人を招いて回心させる為である」（マタイ九章十三節など）とイエス様もはつきり言われている通りです。

先日、初めて、五十嵐理事長の著作『人生を変える出会いの力』を読みましたが、理事長の上に起こった神の摂理に魂を揺さぶられ、自分も誰かのためになる人生を歩みたい、という思いを新たにさせられました。

著作の中で記されていた、養護工場での経験こそ、現在の理事長を形作るものになったように感じました。

私も工場の一助のため、同囚間の平和のため、そして何よりも最も立場の弱い者が安心して生活できるように、ということを中心掛けて、皆の協力を得ながら、より良い工場作りに邁進しています。

こんなことも一つの楽しみ

御禿様さん

突然ですが、皆さんがいる刑務所には、「人気がある工場」はあるでしょうか？「できることなら、あの工場に転業してみたい」という工場はありますか？

私は、某N刑務所において、これまでたくさんの同囚(アンケートを取ってきました。

N刑務所の「転業で行きたい工場」ベスト3は、以下の通りでした！

★第三位

「内掃工場」(※草刈り、掃除、木の殺虫剤散布、残飯回収などを行う)

・理由：「所内を回れるのは良い」「草刈りが面白そう」「娑婆で役立つスキルが身につくそう」などなど。

たしかに、所内を回って作業をするのは、良い気分転換になるのかもしれないね。何より、キレイにすることは単純に気持ち良くて、やり甲斐があるものです。

★第二位

「炊事工場」(※受刑者のご飯を作る)

・理由：「延長食(※時間外作業をやった時に食べられるもの)が食べたい」「毎日風呂に入れる」「報奨金を稼げる」などなど。

炊場は人気ありますね。「炊場」っていうだけでエリート感がありますし、色々と思恵を受けられそうですしね。

ただ、このようなデメリットもあります。「拘束時間が長い」「朝早い」「連休が無い」「上下関係がハンパない」「作業がキツイ」など。でも、やり甲斐はあると思います。

★第一位

「図書工場」(※受刑者が購入・差し入れられた書籍に許可書をつけて各受刑者の舎房に入れる)

・理由：「作業が面白そう」「楽そう」「色々な情報に触れられる」などなど。

やはり、というかダントツでした。みんな行きたいんですね。ホワイトカラー色が強い工場ですから、私も憧れはあります。

と、こんな感じになりました。

ちなみに、私にも行ってみたい工場があります。同じくランキング形式で三つ発表させていただきます。

★第三位

「炊事工場」

私、実は、DM(※一般的につらいと感じることを喜ぶ人のこと)なので(笑)、過酷な環境にあえて行きたがるんです。でも、この工場で懲役をやり遂げられたら、大きな自信になりそうな気がします。

★第二位

「図書工場」

私も行きたいです！(笑) 作業内容を聞いたところ、私の能力を一番活かせる工場だと思ったのが大きな理由ですね。

★第一位

「掃夫」(※洗濯したり、ご飯を配ったりする、いわゆるお世話係)

たりする、いわゆるお世話係)

新訓(※新入訓練工場。入ってきたばかりの受刑者に刑務所のことなどを説明する工場)、懲罰棟、拘置棟、病棟、養護工場(※介護の必要な受刑者たちが行く工場)などの「衛星係」です。これに関しては本当に狙っていて、「何とかして行けないものだろうか？」と毎晩、布団の中で妄想をしています。今の工場も大好きなのですが、「自分のやりたいこと」で言ったら、「こ」が一番ですね。

自分の行きたい工場の妄想するのが最近のちょっとした楽しみだったりします。



光りんさん
「ねえ、もっと、構ってよ」

忘れ上手になる

一兵さん

一般社会や刑務所の中を問わず、集団生活を送る上で、相手の言葉が引っ掛かったり、態度が気になったりした時、どんどんマイナスのイメージが膨らんでいき、ますます、人の言葉・態度が気になってしまいがちです。

皆さんはこんな時、どう対処されていますか？感情のままに怒りを爆発させますか？それとも、肚の中に溜め込むだけ溜めて、精神的にイライラした日々を過ごしていますか？

私も以前は、人の言葉や態度を一つひとつ真に受けて苛立ち、胸の内にいつもモヤモヤしたものを抱えていました。しかし、ある時をきっかけにして、嫌な事を言われても「忘れてしまふ」、という感情整理が出来るようになったんです。

いくら悪意に満ちた言葉を吐かれても、それをすぐに忘れてしまえばダメージは残りません。では、どうすれば忘れることが出来るのか。

人が我を忘れて夢中になれるのは、何か好きなことに没頭している時です。例

えば、本が好きな人なら読書をしている時、汗を流すのが好きな人なら運動をしている時。そんな時つて、心から無心になれますよね。それはとても気持ちのいい時間です。

感情のバランスを上手に保っている人は、生活の中にそんな気持ちのいい時間を持つています。逆に、何かに没頭できるから、上手く感情をコントロールし、平穏な日々を送っている、と言い換えることもできます。

嫌なことを言われた日は、いつもより食事を味わって食べ、寝るまでのゆっくりした時間に、自分の趣味やハマっていることに浸ってみては如何でしょうか。

やりたいことが無い、という方は、とりあえず「いつもと違った何か」をやってみるのがオススメです。何でもいいんです。気分が楽しくなることをやってみてください。

好きなことをしたり、いつもとは違う何かをしたりすることは、感情に刺激を与え、心をリフレッシュすることになります。結果、嫌な感情を忘れ、リセットした気持ちで、新しい一日を迎えることが出来ます。

かく言う私も、まだまだ感情を上手くコントロール出来ているとは言えませんが、

が、「やってみよう」という気持ちがあるだけで、心に余裕が出るのは確かです。

全国の施設でお過ごしの方々は、どんなリフレッシュ法をお持ちでしょうか？ぜひ、教えてくだされば幸いです。

泣き寝入り

Kさん

十一月に、刑務所からお知らせがありました。それは、六月二十八日に発生した食中毒に関するお知らせでした。

「本年（二〇一八年）六月において集団下痢症が発生し、医療衛生センターに届出しました。医療衛生センターの協力のもと、検査を施行し、複数名の便から、下痢原性ウエルシュ菌が検出されました。後日、食中毒と判断されましたが、対症療法により、集団下痢症は速やかに収束しました。一方、食材、保存しておいた食事、炊場等から同菌は検出されず、集団発生の経路は特定できませんでした。ウエルシュ菌は、人の大腸内常在菌であり、健康人の約一パーセントにおいても、下痢原性ウエルシュ菌を保有しており、ウエルシュ菌は下痢等の

症状が治まれば、除菌等の必要はありません。このような事態が発生したことは、大変遺憾であり、以降、医療衛生センターの助言を頂いて、改善に取り組んでおります」とありました。

この時代に、原因が分からないのですか？六百人の人たちが食中毒になったのですよ。本当に原因が分からないのですよ。不思議です。こんな終わり方になるんですね。

この前なんか、出たこともないビーフカツが出ました。豚キムチは、鳥キムチになりました。今まで豚肉が使用されていたメニューは、牛か鳥になっています。やっぱり、自分は長い間の刑務所で生活しているので、変化にはすぐに気が付きます。



雪兎さん「虎」

これからどうなるのかなあ〜と思います
すが、このまま忘れ去られるのでしょうか
ね。懲役は出たり入ったりですから、終
わったことになるのでしょうか。しかし、人
生初となる食中毒なのですが、当事者
なのに原因が分からなければ、これから
の教訓には活かさないですよ。人は痛
い思いをして学習していくと思うので
すが、今回はまさしく泣き寝入りです。

でも、これで終わりにしようと思いま
す。今年で平成が終わり、新しい時代
がやって来ますし…。ここでは、前向き
に生活しないと大変です。

手が出てしまう

(同じく、) Kさん

約七年前に入所してから、七人の懲役
とケンカしています。自分は、学生時代
にボクシングをやっていました。ここへ入
所するまでの人生で、ボクシングをやめ
てから人を殴ったことはありませんでした
が、刑務所へ来てから、七人の人々と
ケンカをし、殴っています。

やはりストレスに自分が負けているだけ
のことだと思うのですが、言い訳なので
すが、自分からケンカを仕掛けることは

無く、仕方なくケンカになる感じです。
が、殴ってしまいます。

運動の時は、一人で黙々と筋トレをし
ています。今でもボクシングは大好きで、
もう一度学生時代に帰るのであれば、
やりたいなあ〜いつも思っています。今、
五十代ですが、三十代の人よりも体力
があります。

それで、ケンカになると、すぐ手が出
ています。普通は、ケンカになると興奮
して我を忘れて殴るのだと思いますが、
自分の場合は、冷静に考えて人を殴って
います。自分自身でも、ヤバいなあと思っ
ています。大抵は一発で終わるのですが、
それでも終わらない場合は、次の攻撃を
瞬時に考えて再び手が出てしまいます。
ストップが利かなくなります。
はつきり言つて、終わった後は、スッキ
リします。「負けなければいい」と思っ
ています。ここ三年間は、半年に一回は殴っ
ています。

普段の生活は別に普通なんです。で
も、相手から生意気な言葉などを仕掛
けられると、ダメですね。「負けたらダ
メ」と思ってしまう。冷静なんです
が、本能的に手が出ます。

ある本に、「神よ、私にお与えくださ
い。変えられないものについて、それを受
け入れられるような心の平安を。変え
られるものについて、それを変えるだけの
勇気を。そして、その二つを見分けられ
る知恵を」(神学者ニーバーの祈り)と
ありました。まさしくそうなんです。
冷静なはずなのに、見極められない。
逃げたらダメ、守りに入ったら他の者に
バカにされる、負けたらバカにされる、
と思ってしまう、「勝たなければ」と考え
て殴ってしまいます。

手を出さずに黙っていたとしても、当
事者として、工場から出なければなり
ません。懲罰にはならなくても、それま
でいた工場や仲良くしていた友人とは別
れなくてはなりません。同じ工場には帰
れないので、それならば、「殴らないと損」
と思ってしまう。暴力では何も解決
にならない、と良く理解はしているの
ですが…。

先日もケンカして、殴ってしまいました。
十二月初めから懲罰になります。クリ
スマスまでには終わります。ゆっくり考え
ます。

入所した時は、「こんなところで十年も」
と受け入れられなくて、かなり荒れてい
ました。今でもケンカしますけど、この

中での生活は何回失敗しても、次があり
ます。社会では失敗できないですからね。
今は、まだケンカをしています
当初に比べると、一人で過酷なトレーニ
ングをしながら未来を夢見て、ポジティ
ブに生きていると思います。

一瞬一瞬で判断しない

Yさん

子どもの頃は、毎日、不安もなく、
絶望など存在しない中で過していました
たが、二十歳を過ぎてからは、本当に地
獄のような日々を過していました。「本
当に辛かった」「嫌な日々だった」「何も
上手いかなかった」と思っていたので
すが、祈りと黙想を続けるうちに気付いた
ことがあります。

初めに結論から言うと、「絶望など存
在しなかった」ということです。

私は、日々の生活や環境、人間関係、
その他の大小含めた物事を、自分の小
さい物差しで測り、「良い」「悪い」と判
断してきました。

自分の思い描く通りに物事が進まなけ
れば、焦り、苛立ちを感じ、人間関係

に關しても、人とちゃんと向き合いもせず、自分の基準で「良い」「悪い」を決めていました。物事の一部分だけしか見ずに、「どうしたい」「どう思っている」というその時の自分の気持ちで判断していました。

しかし、それは間違っていたと、今、分かりました。神様の大きな計画、人生のシナリオの一部分を、人間の私が見て、「良い」「悪い」など、判断できるはずもないのです。

この間、こんな話を知りました

。ユダヤ人の子どもたちは、親や先生に、「どんな人生のどんな事柄も（万事上手くいつているように思える時も、不幸ばかりが起っているように思える時も）、違つた見方をする、別のことが見えてくる」ということを、この話を通して聞かされて育つそうです。

☆

昔、ある所に、アダムスという青年がいた。

彼は、「なぜ神は善い人に不幸を与え、悪い人に幸せを与えるのか」という疑問を持つて悩んでいた。

ある時、彼の町に、預言者エリシャがやってきた。

それを知つて、「どうか私と一緒に連れて行つてください」とアダムスは願つた。エリシャは、「私について来ても良いが、一つだけ条件がある。『なぜ？』と尋ねてはいけない。アダムスは快諾し、旅に出た。

一日目の夜、二人はある村に着いた。ある夫婦の家に泊まつたが、彼らは貧しかったにも関わらず、ごちそうを振舞つてくれた。翌朝、彼らがその家を去る時、夫婦のたつた一つの財産である一頭の牛が突然死に、夫婦は悲嘆に暮れた。

アダムスはこれを見て、「なぜ神はこんなことをするのか？」と訊いてしまった。エリシャは、『なぜ？』と訊いてはいけないと言つたはずだ。もう一度言つたら、私はあなたの前から立ち去る」と答えた。

二日目の夜、二人は別の町へ着いた。そこには、大金持ちで強欲な商人が住んでいた。商人は二人を見て、「ごちそうする金はないが、水一杯なら差し上げてもいいぞ。軒下で寝ても良い」と冷たくあしらつた。二人は軒下で夜露をしのぎ、寒さに凍えて一夜を過した。翌朝、立ち去る時に、エリシャはその大金持ちの庭で、嵐によって根こそぎ倒れていた木

を元の状態に立て直した。

アダムスは、「なぜ冷たい大金持ちにそんな親切をするのか」と思つたが、黙っていた。

三日目の夜、別の町に着いて、二人はユダヤ教会堂（シナゴグ）に泊まつた。その信者は、裕福だが強欲な人たちがばかりだったので、彼らには貧しい食事を与えただけだつた。エリシャは、翌日立ち去る時、「あなた方全員に祝福あれ、あなた方全員が立派なリーダーになるように神は祝福されるであらう」と言つて去つた。

アダムスは首を振り、「ますます分からない」とつぶやいた。

四日目の夜、ある村で、みすばらしいシナゴグに泊まつた。信者は、誰もが貧しかったが、二人を歓待してくれた。立ち去る時にエリシャは、「あなた方の中のたつた一人が、立派なリーダーになるよう、神は祝福されるであらう」と言つた。

これを横で聞いたアダムスは、とうとう我慢が出来なくなり、エリシャに訊いた。「一体どうして、神様もあなたも、富める人には優しく、貧しい人には冷たいのですか!」。

預言者エリシャは彼に答えた。『「なぜ?」と言つてはいけない、という約束を破つた以上、私はここであなたの前から立ち去る。しかし、その前に言つておく。一日目に牛が死んだ家では、そのちようと同じ時間に、あの家の主婦が死ぬ予定になつていた。神はその代わりに牛の命を取られたのだ。二日目の町で庭の木を植え直したのは、その木の根元に金貨が五十五枚埋まつていたからだ。それを強欲な主人から見つからないようにした。三日目のシナゴグでは、全員がリーダーになると、意見がまとまらずに教会の運営が立ち行かなくなる。だから全員を祝福したのだ。四日目のシナゴグで一人が指導者になるように祝福したのは、指導者は一人で良いからだ。すると運営は適切になされて、村は栄える。このように、神がなさることは、一時点のある現象だけを見ても分からない。これをよく心しておくように」。

☆

この話を知つた時、私は、逮捕されてから七年間、暴力団からの離脱が取れず、弁護士も決まらず、親兄弟に話してもこの件については無視されている状況でした。誰に相談しても、何も進むことがなく、心を病んでいました。

当時は、「更生するために、暴力団からの離脱をきちんとしないと」と焦っていたのですが、他の事に関しても、人が物事を決める（選択する）ことが出来るのは限りがあるし、自分でどうしようも出来ないことに気を病む必要はない、と今は思っています（もちろん、出来る限りの努力は必要ですが）。

離脱や弁護士の際は、これ以上個人では何も出来ないので、神様に委ねました。

過去を振り返った時、「絶望だ」と思うて過ごした日々について、「ああしていれば良かった」と思うことが、皆さんもあると思います。ということは、絶望的だと思つていても、必ず希望（解決策）があると思うのです。その時はそれが分からずに、やさぐれていても、実は希望つてすぐ近くにあるのだと分かりました。本当にどうにもならない絶望は存在しないと思います。

私たちはその一瞬一瞬で物事を判断してしまいがちですが…例えば、十字架につけられたイエス様も、その一瞬は誰が見ても絶望的ですが、その後復活されるためには必要なことだったのです。「今、幸せですか」、さらには「幸せな人生ですか」と聞かれて、今は「そうです」と答えられなくても、少し先の未来では、十年後では、どうなるかわかりません。

人生が全部「良い」か「悪い」は、その時その時には分からないと思います。でも、心に余裕が無い時にも、隣人を傷つけない方法を私たちは選択しながら生きていけるはずです。毎日、辛いことや嫌なことがあっても、腐る必要はないと思います。物事（人生）は、成るようになるからです。あの時の「悪い」が、後の「良い」に変わることは、誰でも一度は経験があるはずです。

辛いと感じる時こそ、神様の御心に全て委ねるべき時というサインなのではないでしょうか。

私はいつもこう祈っています。「全ては神様の御心の通りになりますように。人の目には悪いと思える出来事にも、感謝をもって従うことが出来ますように」。



Sさん

人としての行動は間違っていない

Mさん

私の方は、あと少しで出所となります。本来なら、仮釈放の予定で本面接まであったのですが、昨年末に不正授受で調査・懲罰となり、仮釈放での出所は無くなりました。

同囚が腰痛で痛がついて、痛み止めを持つていなかったで、私の持つている痛み止めをあげて同囚が持つているところを見つかつてしまい、吸い込まれてしまいました（※刑務所用語で、刑務官に連れて行かれることを「あげられる」、連れて行かれて戻つてこないことを「すいこまれる」と言つ）。

この中のルールには違反しましたが、人としての行動は間違っていないと思います。ですので、残刑は自分と向き合う時間が出来たと、前向きに頑張ります。

それと、クリスマスカードも送っていただき、有難うございます。つい笑顔になり、調査中の独居でニヤニヤしてしまいました（笑）。

母からの手紙

Tさん

私には病弱な母がいます。

去年で八十歳になったのですが、最近手紙が途絶えており、どうしたんやろう…？と少し心配しています。

と言いますのも、母は一人で生活しているため、家の中で孤独死でもしていないか？とか、入院したのか？と、頭の中がグルグルになって心配しています。

母は、心臓病、糖尿、腰痛、足不自由、右手の腱鞘炎と、本当に病弱なのです。杖が無ければ歩けないらしく、病院へ行く日以外は外へ出ないとのこと。生活保護で生活しているため、お金の面でも不自由していると思います。

最後に手紙が来たのは去年春頃、私が「金メダル」をゲットした頃でした。今その手紙を何度も読み返しています。が、こう書いてあります。

「私はお前に偉い人になつてくれとは思わない。ただ、残りの人生、人間らしく人に迷惑かけずに生きて欲しいだけだ。」

私はもう欲しい物は何もありません。只、もう少し時間（命）が欲しいだけです。

お前が真人間になった姿をこの目で見るとはあの世へは逝けない。産んだ責任があるからです。

お前を極道な道へと行かせたのは、甘やかして育てた私の責任です。ごめんね。」

何回も母を裏切り、泣かせ、苦しめてきた私。一度だけ大金を手にしたことがあります。その時ですら何一つしてやらなかった。世界一の親不孝者です。

事件のことが新聞に載った時、読みながら泣いた母。自分自身が本当に情けなく思います。

私にとって母は偉大です。私が七歳の時、父が他界して、以来、女手一つで子ども三人を大切に育ててくれました。今、手元に三十代の頃の母の写真があります。綺麗で、笑顔で溢れています。

私はあと少しで出所となりますが、出所当日に電話で元気な声を聞かせたいと考えています。

五月のカーネーションも送りたいです。

川柳

（同じく、）Ｔさん

・時が来て 獄着捨て去り 自由の身

・増刑も 無駄でなかった 獄修行

健康相談

Nさん

今、Y刑では、結核の集団感染が広がっています。私の工場で今、五人の感染者が出ています。

感染者でも、隔離しないで工場で仕事させているので、医務の部長に言っと、「菌を撒き散らしているわけではないから大丈夫だ」と言うのですが、それでも感染者が出てくるのです。

私も咳が止まらないので、医務に言っても、検査してもらえません。刑務所の対応は間違っていますか。もしこれが病院で感染したら病院の責任になりますよね。刑務所は責任ないのですか。

ましてや、一人亡くなっているのですから、私もこのまま死んでしまうのかなとか、負の連想ばかりしてしまうのです。

結核って大丈夫なんでしょうか。教えて頂ければ安心なのですが、よろしくお願いします。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

結核

皆様、体調いかがですか。

マザーハウスに、結核に対して不安の思いを抱いておられる方からの質問が届きました。また、一月二十三日のヤフーニュースには、「昨年十一月、広島刑務所の受刑者五名が結核に感染した」と書かれていました。保健所の調査により、さらに四名の発病が確認されたそうです。

今回、質問をいただいた方を含め、皆様の中には不安な日々を過ごされている方が多いのではないかと思います。結核に関して書かせていただきます。

症状

結核は、結核菌という細菌が体の中に入り、増えることによつて起こる病気です。

日本では、結核の約八割は肺です（肺結核）。結核菌が肺の内部で増えて、結核に特有な様々な炎症が起こります。その後、肺が破壊されていき、呼吸する力が低下します。肺以外の臓器が侵されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など、体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります（肺外結核）。

初期の症状は力ぜと似ていますが、せき、痰（たん）、発熱（微熱）などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。二週間この状態が続くようでしたら、早めに相談をしてください。結核を発病しているかもしれません。

さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰（たん）などが出始め、

喀血（血を吐くこと）や呼吸困難に陥って死に至ることもあります。結核は国でも指定されている感染症なので、発病して病気が進行すると、うつる（又はうつす）可能性があります。

検査

ここで、次の言葉の違いについて、説明させていただきます。

- ・「感染」…結核菌が体内に潜伏し、閉じ込められた状態のこと。
- ・「発病」…結核菌に感染後、結核菌が活動をして、菌が増殖し、身体組織を侵すこと。

「発病」しているかどうかは、大きく三つの検査で分かります。

一つ目は、結核菌に対する感染の有無を確認する、ツベルクリン反応検査（腕の内側に豆注射をする）です。陰性の場合、「結核に対して免疫（抗体）がない」ということですので、感染をしている可能性は低いですが、感染リスクが高まりますので気は抜けません。陽性の場合、基準が三段階に分かれており、陽性の程度で感染の判断を行います。

二つ目は、インターフェロガンマ遊離試験（血液検査）、三つ目は喀痰検査（吐き出された痰の成分等を調べる）です。結核の検査を受けると「ガフキー」という単語が登場しますが、ガフキーとは、喀痰を用いて結核菌の量を測定する検査で、感染の強さをガフキーの号数で示すものです。数が増えるほど菌の数も多いことをあらわしています。



河童さん

なお、ツベルクリン反応検査で陰性が出た方は、予防のため、BCGワクチン（腕にハンコのような跡が残っています）を子どもの頃に接種しています。一度、「ご自身の腕を確認してみてください。」

「感染」した人が「発病」する確率は、BCG接種を受けた人の五〜十パーセントと考えられています。しかし、免疫力が弱まっている時は、結核菌が再び活動を始め、「発病」しやすい状態になっています。抵抗力が低い方（高齢、過労、栄養不良、他の病気など）による体力低下等）は特に注意が必要です。

予防・治療

結核菌を吸い込んでも、必ずしも「感染」するわけではありません。多くの場合、体の抵抗力により追い出されます。しかし、しぶとく菌が体内に残ることがあります。その場合、免疫が結核菌を取り囲み、「核」を作ります。「結核」という名の由来はそこにあります。

結核菌が体内に残っていても、ほとんどの場合は免疫によって封じ込められたままであり、一生「発病」しません。また、「感染」だけの状態なら、周囲の人につす（感染させる）心配はありません。

結核「菌」ということで、「マスクを着用すれば予防できる」と考えがちですが、一般的なマスクでは、乾燥を予防できる程度です。結核菌はマスクを簡単に通過してしまいますので、菌の侵入予防にはなりません。

本格的な予防をするためには、N95という特殊なマスクを装着しなければなりません。医療用具になりますので、矯正施設では購入できません。

治療に関しては、幾種類かの薬を、基本的には半年間、併用して内服します。途中で薬をやめてしまうと、効く薬がなくなり、治療が困難になることもあります。

矯正施設での状況

矯正施設には、感染症への予防マニュアルが存在すると考えられますが、どのようになっているのか、私は詳細までは確認したことはありません。

もちろん、医師が判断を下しますし、国で指定された感染症にかかった者がいれば保健所への届け出が必要で、指導も受けるはずです。

そして、重篤で監視管理が必要な場合は、その者と接触した可能性のある者に対しては追跡検査を行い、保健所への報告義務が発生します。

平成二十六年度の、厚生労働省による研究費での研究では、『刑事施設における結核対策の手引き』と刑事施設と連携していくために』という部分で検討がなされています。

ただ、法務省と厚生労働省との管轄が異なるために、十分にこの研究内容が機能しているかは不透明であると言えます。

その報告書では、刑事施設における結核の発生率が高いと考えられています。新受刑者中、六十八パーセントが犯時無職、二十パーセントが住所不定であること、また、被収容者の多くが、収容前から栄養失調や精神疾患など様々な健康問題を抱えており、疾病全体で見れば有病率が常に五十パーセント前後であることから、我が国の受刑者の多くが、結核に対する社会経済的、そして医学的なリスク要因を有していることが示唆されています。

そのため、刑務所における結核の発病は、一般人口に比べて約十三倍であると述べられています。

最後に

以上の内容は、公益財団法人結核予防会が出されている情報を参考にさせて頂き、なるべく分かりやすくまとめたものです。

結論として、矯正施設でも感染症対策は行っていますが、医療機関ではありませんし、医療知識を持った者が全て対応しているわけではありませんので、十分ではありません。

そのため、皆様をお願いしたいことは、自身の健康は自身で守るためにも、手洗い、うがい、歯磨きを積極的に行ってください。

今の時期においては、ノロウイルス、インフルエンザウイルスなどが流行っており、特にノロウイルスは乾燥にも強いので、感染の危険が増します。

他に、感染症について知りたいことがございましたら、また、結核に関しても、治療内容などについて今回は一部しか載せておりませんので、追加で訊きたいことがございましたら、いつでもお知らせください。

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

「え？出てきたばかりのWさんが突然、精神病院に入院した！？」。

「え？ラウレンシオの仕事で遠方に行った帰りに、高速道路のインターでMさんが脱臼し、『痛すぎて車に乗れない』とこねて救急車を呼んだら受け入れ先の病院がなくて、救急車の中で二時間待たされた！？」（その間に他の仲間も一緒に車に乗っていたら東京の病院に行けた）。

「え？Sさん（お爺ちゃん）が自転車に乗ったまま帰宅せず行方不明だと騒いでいたら、警察に補導されていて、腰が痛くて警察官と病院に行っていたー？」。

マザーハウスはよくハプニングが起こる。

つぶやき！

★M刑は、昼、工場で歯磨きが出来ます！誕生会は、ココナツサブレが出ます！Mという地域ゆえ、最近は週二回、夜に納豆が出ます！

幸せ、感謝の気持ちです！

（藤さん）

★マザーハウスより四十七号に私の文章が掲載されていました。有難うございます。

たよりを読んでみると、「何か、聞いたことのある文章だなあ…」と思っていたら、ハッとしました。俺じゃなーかつーと笑

（Oさん）



Sちゃん

お知らせ（編集後記）

今月号もお読みくださりありがとうございます！

さて、お知らせがたくさんあるので、編集後記に代えて、箇条書きで失礼いたします。

★フランス人男性の方との文通について

→皆様には大変お待たせしてしまい、申し訳ございません。先方と話し合いの上、文通相手の方が正式に決定しましたことを、お知らせいたします。

なお、応募者多数のため、決定されなかった方へは通知いたしませんのでご注意ください（今年の1月中旬に通知を受け取られなかった方は、今回の文通はお見送りとなります）。個別の通知をご希望の方にはお送りさせて頂きたく思いますので、お知らせくだされば幸いです。

★獄POSについて

→先日、獄POS 作品を更新しましたことのお知らせいたします。獄中ボランティアの皆様には、完成次第、カタログとサンプルをお送りさせて頂きます。

また、獄POSのプレゼントにつきまして、在庫状況の変動が大きいため、今後は、在庫によってプレゼント内容が異なってまいりますことをご了承ください。ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

★文通中止となった方、途絶えて半年以上経った方へ

→特に、文通が突然中止となってしまった方の中には、心の整理がまだ追いつかない方もいらっしゃると思いますが、もし、落ち着いて、また新しいお手紙のやり取りを希望される場合は、事務局「山岡るり」までお手紙ください。

★たよりの掲載について

→「塀の中／外のたより」では、編集局への投稿だけでなく、事務局などへのお手紙の内容も掲載させて頂くことがございますので、ご注意ください（もちろん、MLPでのお手紙は対象外ですのでご安心ください）。掲載を希望しない文章は、編集局以外へ宛てたお手紙でも、「掲載不可」と明記して頂ければ幸いです。

以上、いつもお手数おかけしておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

来月号もお楽しみに！

マザーハウス編集局

ご支援 本当にありがとうございます！

12月16日～1月15日の寄付金

合計：903,255 円

（内 愛のプリズム宣教基金：2,000 円）

行事予定

▼2/19 18:00～

マリア・カフェにて、当事者ミーティング

▼2/20 10:00～

東京地方裁判所刑事部にて、情状証人として出廷

▼2/20 18:00～

龍谷大学にて、APS研究会（in 京都）

▼2/23・24 10:00～

龍谷大学にて、

東アジア薬物依存者回復支援者（DARS）

養成セミナー「受刑経験者の回復支援」で、講師

▼2/25 10:00～

大阪教区事務所にて、前田万葉枢機卿と面談

▼2/26 16:00～

すみだ障害者総合就労支援センターにて、

職員を対象とした講演

▼3/3 ミサ終了後～

カトリック平針教会にて、

講演「人生を変える出会いの力 ～闇から光へ～」

▼3/12 18:00～

マリア・カフェにて、APS研究会（in 東京）

▼3/16 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール 404 室にて、

対談「刑務所でのマインドフルネスの可能性」

▼3/19 18:00～

弁護士会館12階にて、

第一東京弁護士会・刑事法制委員会で、講演

「出所者の生活・就労支援と弁護士活動について」

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

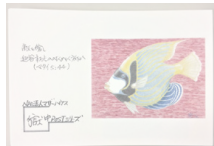
獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々へ、また、
その他の機会等で感謝を込めてお贈りさせていただく予定です。
（在庫状況により、お贈りする内容は異なります。デザインはランダムです。）



＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



マザーハウスたより2月号

2019年2月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ 活動日記ブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的
なカウンセリングを行います。

メール：counseling@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：30分5000円より

ホームページ：http://profile.ameba.jp/fengshui0708/（QR →）



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→お振込み口座名：

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

（TEL：03-6659-2110）